

市町村	団体名	団体の功績	地域の概要
1 鳥取市	いやくら 岩倉地区まちづくり協議会	<p>○誰でも気軽に来れる楽しい場所として、子ども食堂を運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民や学生等のボランティアが運営に携わり、ロコミによって参加者が約60名まで増加している。 ・ボランティアの負担を軽減して長期的に運営するため、参加できる日に自主的に参加する形としている。 ・高齢者から若者まで、幅広い年齢層の交流の場にもなっており、学校や家庭とは異なった子どもたちの居場所の1つになっている。 ・コロナ禍により、予約制とするなどの適切な感染防止対策を講じつつ、SNSのグループに登録してもらい一斉連絡等ができるようにして、参加しやすい環境作りと運営方法の工夫を行っている。 	鳥取市岩倉地区は、鳥取市の東部に位置し、国府町に隣接する。津田短期大学や鳥取連帯区の練兵場があった歴史ある地域であり、近くには稲葉山がそびえ、かなたには扇ノ山の雄姿が望見でき、地区を通る産業道路の両端にはプラタナス並木が並ぶなど、景観的にも素敵な町である。
2 鳥取市	たに 谷地区活性化協議会	<p>○地域住民による自主映画の制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・因幡の傘踊りを創始した山本徳次郎の功績や魅力を次世代に伝えるため、住民自らが構想し、企画から上映に至るまで全て住民の手で自主映画「傘に愛をこめて 山本徳次郎」を制作し、地域の記録と住民参加のまちづくりに取り組んだ。 ・地区内外から映画制作の専門家や大学生等呼び込み、交流や新たなコミュニティネットワークが創出されるなど、制作には総勢600名を超える人々が関わった。 ・上映会やケーブルテレビで取組を紹介したところ大きな反響があり、各メディアでも地域の活性化に貢献した取組だと報じられた。 	鳥取市国府町谷地区は、鳥取市の東部に当たる旧国府町の中央に位置し、11の集落から成る。梶山古墳や岡益石堂などの古代遺産を有する地域であり、因幡の傘踊りを創始した山本徳次郎をはじめ、考古学者の川上貞夫や小説家の岡田美子など、多くの先人を輩出した。
3 米子市	ひがしちょう 東町自治会	<p>○世代間交流を通じた高齢者対策と防災対策の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回東町公園の清掃を行い、住民の交流や情報交換ができる井戸端会議の場とし、近所同士の呼びかけ、見守り活動、支え愛マップの更新に繋げている。 ・高齢者と子ども達との世代間交流は、子ども達の防災活動への参加に繋がり、一緒に学習できるようになった。 ・定期的に「防災通信」を発行して防災意識の向上に取り組んでいる。 ・避難訓練の活動の継続と特に子ども達やその親世代の参加意欲を高めるため、水消火器での消火訓練（水遊び感覚で使用方法を習得）や保存食を使つての炊き出し訓練等、訓練の中にも楽しみを持たせる工夫を加えている。 	米子駅前通りを中心に南北に細長く、米子市の中心部に位置する地域である。通りに面して銀行、飲食店、大手保険会社等があり、南北は住宅地となっている。南側は保育園、大型マンション、公園、医療機関等があり、北側は合同庁舎、市役所第二庁舎、医院等がある。
4 米子市	みつやなぎだんち 三柳団地2区防災会	<p>○「コミュニケーションが最も優れた防災装備」の信念を元にした各種活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平時の声掛けや見守りを通じて、安心して安全に暮らせる地域づくりを推進。 ・役員等には防災、福祉、医療、教育の有資格者を任命しているほか、女性のスタッフの視点からも運営を検討して体制の充実を図っている。 ・自治会内全世帯の情報を把握して「班別、世帯別、個人別」の安否確認表を作成し、災害時に使用するようになっている。 ・全員の安全な避難の実現と楽しく防災を学習できる「防災フェスティバル」を企画。高齢者サロン会と子ども会の合同事業とすることで多世代交流、広く防災知識の普及を行い、平時の相互見守りや災害時の避難支援の啓発に繋げる。 	米子市加茂地区北側、弓ヶ浜公園隣に位置している。比較的古い団地で高齢化が進む一方、40代～50代の壮年人口や10歳以下の小さい子どもの人口比率も高い地区である。
5 米子市	かわおか 河岡自治会	<p>○高齢者対策を通じた自治会内の活性化の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急医療安心キットの備蓄や要援護者登録台帳及び支え愛マップの更新を行うとともに、地域での見守り体制を整えている。 ・自動車の移動が困難になった高齢者等に向けて民間の移動販売車を誘致した。 ・毎年防災訓練を行っているほか、除雪隊を結成して通学路等を中心に除雪作業を実施している。 ・高齢者が子どもたちに地域の歴史を伝えることで地域の理解を深め、次世代の地区を担う人材を育成している。 	地区の中心に野本川が流れており、一年を通してカモが飛来し、地域のシンボルとなって親しまれている。西伯耆では永禄5年（1562年）頃から尼子氏と毛利氏によって戦いが繰り広げられ、永禄6年には杉原盛重が日野から尾高城に入り、山田満重が河岡城に入っている。河岡城は御崎神社の辺りにあったという。現在は圍場整備によって遺構は残っていない。
6 倉吉市	しもよど 下余戸自治公民館	<p>○自治会加入率100%の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規持ち家の世帯に対しては、総会への参加を促し、自治公民館長又は班長が自治公民館活動等の説明を行っている。 ・新規借家やアパートの世帯に対しては、大家（殆どが下余戸在住者）に公民館への加入を契約の条件とするよう依頼して承諾を得ており、100%の加入率となっている。 ・大家が地区外の場合は、公民館長が各世帯に加入を依頼している。 ・借家やアパート住まいの住民の中には自治公民館の役員として活躍している者や自治公民館主催の事業に役割が任じられて積極的に参加している者もいる。 	倉吉市の東部に位置し、旧西郷村の一部に当たる。西側に天神川、東側に栗尾川が流れ、北側は八屋、倉吉駅が見渡せる平地で、昭和40年代までは稲作を中心とする農業地帯であった。当時は24世帯程の集落であったが、現在では持ち家が86世帯、借家・アパートが154世帯程に増加している。地域内にはしだれ桜で有名な極楽寺がある。